

○ 萩谷家・前

萩田将吾（13）、中学校のカバンを持ってインターホンを押す。インターホンは数回の呼び出し音を鳴らし、金山美子（36）、出てきて、

美子 「将吾くんおはよう」

将吾 「（少し驚いて）あ、おはようございませう」

美子 「信希、さつき起きたところなの。すぐに準備して行かせるから、今日は先に行つててもらえる？」

将吾 「はい」

美子 「ほんとごめんねえ」

将吾 「少し会釈して歩いていく。良美、家に戻って行く。」

○ 通学路

将吾、一人で歩いている。背後から、歩美（13）、鈴（13）、辻杏奈（13）の手を引っ張りながら走って来る。

歩美 「早く行くよ」

鈴 「今日渡すつて決めたんでしょ？」

杏奈 「屁っ放り腰になりながらも歩美と鈴に両手を引っ張られて、

歩美 「やっぱり辞める！」

歩美 「ダメ！行くよ」

歩美 と鈴、半ば強引に杏奈を連れて歩いて行く。将吾、立ち止まって杏奈を見ている。将吾の顔、少し嬉しそう。

○ □□中学校・校門

将吾、門の前に立っている先生に会釈して、一人で歩いて来る。陸上の格好で前

方から走ってくる寛也（13）、将吾に

「気づいて、将吾」

寛也 「おう、将吾」

将吾 「おはよう」

寛也 「あれ、信希は？」

将吾 「寝坊だって。まあ、遅刻はしないと思

う」

寛也 「そうか。じゃあ、また後で」

将吾 「おう」

寛也 「走って校門を出て、外周を走っ

て行く。将吾、下駄箱に近づいていく

と、杏奈たちの声がかすかに聞こえる。

○同・下駄箱

将吾 「近づいてくると、男子の下駄箱の

前で杏奈、歩美、鈴、集まって話してい

る。歩美、将吾に気付いて、

歩美 「やばい、誰か来た」

杏奈 「早く行くよ」

鈴 「早く行くよ」

杏奈 「歩美、鈴、一緒に

走って行く。将吾、3人が走って行くの

を見届け、ゆっくと自分の靴箱に近づ

いていく。将吾、ゆっくと自分の靴箱

を覗くと、ピンク色のかわいらしい封筒

が入っているのが見える。将吾、周りに

誰もいないことを確認し、手紙を手にと

り、しゃがむ。将吾、封筒を見るとき、

杏奈より『と書かれていた。将吾、と

も嬉しそうな表情を見せている。将吾、

箱に2人の女子生徒が来る音がする。将

吾、急いで立ち上がって封筒を自分の背

後に隠し、地面に落ちた何かを探すふり

置き、
信希 「疲れたよ。目覚ましは鳴らないし、母
将吾 「（遠い目をして）そうか。」
信希 「どうした？ 元気ない？」
将吾 「そんな事ないよ。」
信希 「そうか？」
信希 「自分で自分の席に座るが、椅子に違和感
を感じて立ち上がる。信希、自分の椅子
を見る、そこにはピンク色のかわいら
しい封筒がある。
信希 「なんだこれ。」
信希 「封筒を手にとって、椅子に座る。
封筒の表には『萩谷信希くんへ』、裏に
は『辻杏奈より』と書かれている。
信希 「辻？」
信希 「廊下の方を見ると、遠目で杏奈、
歩美、鈴、信希を見ている。杏奈、信希
に見られたことに気づき、走って逃げて
いく。信希、嬉しそうに将吾に封筒を見
せて、
信希 「見てこれ。誰からだと思う？」
将吾 「さあ、誰から？」
信希 「信希、将吾に封筒の宛名を見せて、
少し間が空き、
将吾 「そうか。良かったな。」
将吾 「小走りで教室を出て行く。
信希 「将吾。」
将吾 「そのまま走って行く。信希、首
を傾げ、嬉しそうに封筒を開ける。